

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2770300867
法人名	フラッシュ日乃出産業株式会社
事業所名	グループホーム日乃出
所在地	寝屋川市宇谷町10番1号 (電話) 072-825-8735
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年3月17日

【情報提供票より】(平成19年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	14人, 非常勤 3人, 常勤換算 12.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	約26,250円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315円	昼食	525円
	夕食	525円	おやつ	105円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年12月15日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上山病院、小松病院、ネヤ川サナトリウム、横山診療所、安部歯科、西本眼科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

保養所を改装して7年前に寝屋川市で最初に開設された民間企業のホームで、幹線道路からは少し離れた静かな所にあり、ホームの日本庭園には梅や桜が咲き、栗や柿の実が成ります。鯉が泳ぐ池や大きな樺があり、季節折々の自然が楽しめます。『笑顔とふれあいの家』を理念にパンフレットなどに標榜しており、職員は理念を共有して、明るい声かけ、穏やかな表情、愛ある視線、居心地の良さの提供など各自が具体的な行動指針として反映しています。利用者は穏やかに明るい表情で過ごされています。職員も利用者から元気をもらっています。また、利用者同士が支え合う場面も見られました。ホームには常勤の看護師が開設時からケアに関わっており、介護職員と良いチームプレイが伺えます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回特に改善を要する点は特にありませんでしたが、前回受けた外部評価結果を活用し更に改善に取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価調査については合同会議の課題として取り上げ、意義の理解につなげています。今回の自己評価は記載後に回覧し職員全員が周知しています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議はまだ立ち上げられていません。ホームの今までの実績や実力を活かして、近隣の学校や地域包括支援センター等を通して、新しい地域社会の構築や自治体への働きかけバックアップ体制の確立の要請を期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 職員は家族より何かあればすぐに連絡を受けられる体制を取っています。家族の訪問時には近況を報告しています。訪問時にいただいた家族からの意見は面会表に記しています。家族の要望によって入浴機会を増やすなどに反映した実績もあります。心身の状況の特別な変化等については電話連絡を行っています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の特別養護老人ホームとは協力関係を持っています。小学校とも交流があり、運動会への参加、社会見学の受入れ、小学生ボランティアの受入れ、『こども110番』事業にも協力しています。こどもを通して周辺地域に理解と協力の輪を拡げています。歌体操や三味線等のボランティアの訪問もあります。前例を教訓として、近くの交番には、ひとりで出掛け道に迷われた利用者のサポートを依頼し協力を得ています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『笑顔とふれあいの家』を理念に明文化してパンフレットなどに標榜し、利用者と職員が微笑みを絶やさない関係のなかで支援を目指しています。また、法人の理念として、当事者が地域に出ていき、地域住民として交流していく施設を目指す。既存の高齢者施設と連携しながら地域に開かれたホームを目指すなど地域密着型の役割にも取り組む姿勢があります。職員が慣れ親しんでいる理念と重要事項説明書にある法人の理念を整理して組み合わせ、具体的なイメージが湧く新しいものをつくるのが期待されます。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、明るい声かけ、穏やかな表情、愛ある視線、居心地の良さの提供などと各自が具体的な行動指針として反映しています。月1回開催するユニット合同の全体会議で理念を唱和しています。	○	表示よりも実行をとの管理者の思いもあって、理念の掲示はありませんが、利用者や家族に宣言することで理解が浸透することも期待して、掲示されることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	眼下に見える小学校から運動会の招待状が届き出かけています。小学生のボランティアも受け入れています。また『子ども110番』事業にも協力しています。ホームには歌体操や三味線などのボランティアの方が来られ、利用者の楽しみになっています。近くの交番には利用者の顔写真と行動特徴を記した『身元紹介書』を預けています。一人で出掛け道に迷った利用者が通りすがりの方に交番に連れて行ってもらった事もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は記載後に回覧し、職員全員が周知しています。前回に受けた評価結果を活用し改善に取り組んでいます。また、今回の外部評価に関しては合同会議の課題として取り上げ、意義の理解につなげています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の必要性は理解していますが、近隣は倉庫が多くマンションの管理組合以外に自治会等がない、自治体のバックアップ体制が整備されていない、など諸般の事情によりまだ運営推進会議は開かれていません。	○	今までの実績や実力を活かして、近隣の学校や地域包括支援センター等を通して新しい地域社会の構築や自治体への働きかけを期待します。運営推進会議を進めるルール(目的・構成)を定めた規定・規約を作成する事から始めることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回は広報誌を市に持参し、担当者と情報交換やコミュニケーションを図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ユニットごとのホームだよりを送付しています。また、利用者個人ごとに様子の分かる写真を添えたお知らせを隔月に家族に送付しています。新任職員は広報誌でも紹介しています。訪問時には近況を報告しています。心身の状況の特別な変化等については電話連絡を行っています。金銭の預かり金はありません。家族からの情報や意見については面会表に記すようにしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族より何かあればすぐに連絡を受けられる体制を取っています。訪問時に頂いた家族からの意見は面会表に記しています。家族の要望によって週3回の入浴日以外にも入浴の機会を増やすなど、反映の実績もあります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族に対して職員の異動による不安を和らげる配慮をしています。離職に対してはスムーズな引継ぎをするよう留意しています。新しい職員は広報誌に顔写真を掲載し訪問回数の少ない家族にも周知しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者も職員も研修には意欲的で必要に応じて外部研修を受けています。資格試験等の受験料の半額はホームで持つシステムや研修情報の提示で支援しています。また、職員も研修情報を探し出しスキルアップを図っていますが人員配置を遵守するため、年6回以上の各種研修の全てを実施するのは難しい状況です。	○	年6回以上の研修のうち、外部研修への受講者派遣は2回以上。後は内部研修でよいことになっていますが「緊急時対応」「認知症」「感染症」は必須と考えられています。また、受講後は報告によって情報を共有することが求められます。事例検討などを内部研修として形を整え、記録を残して働きながらのトレーニングに取り組まれることが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に参加しています。地域包括支援センターの主催でグループホームの情報交換の集まりに参加しています。当地におけるグループホームの草分け的存在として市の中でグループホーム協議会等、有意義な連絡協議会を創られることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始される日を定める場合、入居についての理由等を家族と事前に詳しく相談し、職員が事情等を周知する事を徹底しています。デイサービスを利用していた方が入居された時には、通所で馴染みの施設であり安心してホームの生活に入っていました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	在宅での生活を継続するために家族から情報を得て、好きな家事などをしてもらい、職員は教えてもらう立場になって一緒に作業します。好きな花を栽培されている利用者にはプランターの一つにねぎを植えてもらい、食材にねぎが必要かどうか尋ねてもらっています。庭にある大きな桜の若葉を今年は塩漬けにしようと、その方法を教えてもらう事を楽しみにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族の希望を聞き記録して日々の生活に反映させています。自宅での外泊支援、あるいは花の苗や球根をバルコニーで栽培して楽しむ支援など個人の意向に合わせた特徴的なサービス提供をしています。他の利用者と共に歌う事や歌声などを嫌がる利用者には無理に勧めず、他の方法をとっています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを行っており、ニーズに則したケアの実践ができているか検討し、介護計画に取り入れています。作成した介護計画は必ず家族と面談の上、計画を読みあげて説明し同意のサインを得ています。作成された介護計画は全職員が目を通し確認印を押しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護に必要な記録は揃っていました。月に1回ケア会議を開催し利用者の生活の変化に対応しています。入院の方が退院した時にも見直しをしています。基本的には3ヶ月ごとに利用者個々に何が必要かの一覧表をチェックして、丁寧に介護計画を評価するシステムも出来ていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	通院・受診は送迎を行っています。入居前 のかかりつけ医への受診は、家 族や看護師が必要に応じて付 き添っています。小学生の社会 見学の受け入れやボランティア の受け入れを行っています。当 ホームには利用者の生活ス ペース以外に広い和室があり、 ボランティアの方の演奏会など にも使用しています。併設の デイサービスとの交流もあり ます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居時に利用者本人や家族とも 話し合い、ホームの提携医に 受診するか、今までのかかり つけ医に受診するか話し合い、 希望する医療機関を把握して います。月2回内科医の往診 を受けています。また、内科 以外の他のかかりつけ医にも 月1回の定期受診を支援して います。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い 段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期の対応について、 基本的な事は職員間で共有し、 ホームが対応し得る支援方法 を家族にも説明しています。現 在までのところ、終末期の介 護をした事例はありませんが、 常勤の看護師がいます。退院 時に受け入れ可能な状態かど うかについてはその都度家族 ・看護師・職員が話し合っ ています。家族の協力がどの 程度得られるかによって対応 も変化します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規定が定められ職員は周知しています。ミーティング等で利用者の人格を尊重しプライバシーを損なわない対応の徹底が図られています。同業の仲間と事業所外で話す場合にも利用者の名前は出さないよう心掛け手います。調査当日も職員の気になる言動は見受けられませんでした。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴などの情報を得てそれぞれに合わせた生活を支援しています。ホームでのレクリエーションも均一な参加を求めず、その人らしい他の方法を支援し、リハビリをしたい人には専門家の指導も受けられるなど複数の選択肢でその人らしい暮らしを支えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	開設時は食材の購入も利用者と共にいき、食事作りも行うことができていましたが、日常生活動作の低下に伴い、現在は盛り付けや後片付けなど利用者ができる事を手伝ってもらっています。職員は利用者と一緒に食べながらさり気なくサポートしています。利用者同士が支えあう良い環境がありました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回できるようにしています。入浴時は一人ずつゆっくり入る配慮をしています。希望すれば決まった回数以外にも入浴できます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅の頃から馴染んだ家事、洗濯物干しやたたみ、新聞取りや食事の盛り付け・食器洗い等を日常的に行って生活していただいています。またこれまでの生活歴や得意なことについての情報を得て、花の世話の好きな方・絵手紙の作成の得意な方・習字をたしなむ方・ボランティアの受け入れにより歌を楽しんでいただく方等、それぞれの生活を支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出可能な方で季節の良い時は、近くの公園への散歩をしています。また広い庭園で外気に触れる機会が週1回程度ありますが、日常的とは言えない状況です。池に鯉が泳ぎ、梅や桜が咲き、栗や柿が実る広い日本庭園は入居時に魅力的な選択条件になっています。歩行が困難になってきた方も庭園内の自然が楽しめるような工夫の継続が望まれます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの行動パターンや希望を察知できるよう努めています。利用者が落ち着かず安全面の配慮がいつも以上に求められる時には施錠する場合がありますが、基本的に、日中は玄関の鍵を開錠しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時には3階はベランダから2階は直接に庭に出ることができ避難しやすい立地条件です。消防署の協力を得て対策に取り組んでいます。急変や事故発生等のマニュアル・災害発生時マニュアルについての再確認は年数回行っています。利用者職員合同の避難訓練を月に1回程度行うことを目標に取り組まれてはいかがでしょうか。缶詰や飲料水など非常時に利用できる物もありました。今後は必要な備蓄品を意図的に蓄え、年1回点検するシステム作りが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録に残しています。水分の摂取量は概ね把握しています。特に体調不良（発熱・下痢等）が出現した場合はスポーツ飲料等を補給し脱水症状が起こらないよう留意しています。食事のメニューは利用者の好みを伺いながら立て、以前勤務していた栄養士がチェックした献立表等を参考にして栄養バランスに配慮しています。より確実に栄養バランスを把握するために、今提供している献立についても時々専門家の意見を求める機会を検討することが望まれます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階・3階とも食堂テーブルを中心に利用者が過ごしやすいうように配慮されていました。ソファを置き利用者が団欒出来るようにしています。庭先にもテーブル・椅子があり気候が良くなると戸外でも寛げます。居室フロア以外に5階に畳の部屋があり、ひな祭りの飾りやボランティアの演奏会などに有効に活用できます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ持ち込む家具等の選択は利用者本人や家族に任せています。いろいろ思い出の品のある居室・自分の作品を飾った居室・本人が望まないのであまり物を置かない居室とそれぞれ個性のある居室になっています。蒸気機関車が大好きな利用者の部屋には使用済みのカレンダーの大きな機関車の写真が貼られ、喜ばれています。		